



平成27年度 森林環境教育セミナー

- 1 趣旨 学校等教育機関での森林環境教育プログラムに基づく森林環境教育の導入を促進することを目的として、箕面市教育委員会等と連携した森林環境教育セミナーにより、プログラムの普及・定着を図る。
- 2 実施日時 平成27年7月27日（月）10時00分～16時00分
- 3 実施場所 箕面国有林 「勝尾寺園地」
- 4 受講者等 教員 箕面市27名 計27名（小学校17名・中学校10名）
 講師 山下 宏文 氏（京都教育大学教授）
 久留飛 克明 氏（大阪府立箕面公園昆虫館館長）
 指導者 きんきちゅうごく森林づくりの会3名
 箕面市教育委員会1名、森林管理局関係7名 総参加者 40名
- 5 カリキュラム

10:00～10:15	開会 主催挨拶
10:15～11:15	講義 「森林環境教育の重要性と進め方」 講師 山下 宏文 氏（京都教育大学教授）
11:15～12:15	講義 「昆虫きらいにならないで」 講師 久留飛 克明 氏（箕面公園昆虫館館長）
12:15～13:00	昼食
13:00～15:30	箕面国有林の管内概要の説明 間伐体験の実施
15:30～16:00	ふりかえり



開会で、才本所長は「持続可能な社会を形成していく上で、生態系保全や再生可能な資源生産面等で森林が果たす重要な役割を体感し、身につけることができる森林環境教育の充実が大切である。このセミナーを契機に、学校教育の場で森林環境教育を実践してほしい」と挨拶。

○講義 「森林環境教育の重要性と進め方」 京都教育大学 山下宏文 教授

小学校での各教科で、森林や里山がどう取り扱われているか。森林環境教育のポイント（体験する、知る、かかわる）、今後の森林環境教育の進め方について講義がされた。

参加者からは、「童謡や身近なところに森林環境という観点があることを知った」「知識のみだったのが考え方が広がった」など今後につながる意見の外に、「自分たちは森林を知らない」との意見など、森林への理解・学習の難しさも感じました。

○講義 「昆虫きらいにならないで」 大阪府立箕面公園昆虫館 久留飛克明 館長

まずは先生が昆虫を好きになってもらわないと子どもに伝わらないとして、「昆虫になぜ羽があるのか」「幼虫から成虫への変化のしかたの違い」などの講義がありました。

参加者からは、「子どもたちに聞かせてあげたい話だった」「昆虫のすごさを知ることができた」「教科書だけではわからないことをどう伝えていくか」などの意見が出されていました。

○間伐体験 4班に分かれて実施する。

参加者の中には、ノコギリ初体験で木を伐ったり、隣の木に引っかかってなかなか倒れない木に悪戦苦闘するなど、1時間半ほどの時間で各班数本ずつの木を間伐しました。

細い木でも重いことを実感し、危険と隣り合わせであることも理解するなど、「身をもって体験してわかったことが多かった」「この間伐の体験を伝えたい」などの感想が出されました。

6 アンケート結果

「セミナーを受講して、森林環境教育は必要だと思いますか？」との質問に、小学校教員で17名中12名が必要と回答、中学校教員では10名中9名が必要と回答しました。しかし、実際に授業が行われているかを聞いたところ、行われている 小学校教員6名、中学教員3名となっており、授業時間の問題や教員に認識がない、などの意見が出されました。

また、「自然環境の中で体験を通じて学ぶ授業はとても楽しく有意義なものと感じた」「環境の授業の中で今回の内容を生かしたい」「子どもたちに自然とどうかかわっていくか考えさせたい」等の意見もあり、今回の体験が実践的な森林環境教育に繋がることに期待しています。



平成27年度 「森の探検隊」教員研修

- 趣旨 「箕面体験学習の森」で、森林内で体験しながら学習できる「森の探検隊」プログラムの内容や意義について学ぶとともに、プログラムの充実を図ることを目的として、箕面市教育委員会等と連携した教員研修を行い、教員の森林環境教育に対する理解を深め、指導力の向上及びプログラムの普及を図る。
- 実施日時 平成27年7月24日（金） 10時00分～15時00分
- 実施場所 箕面国有林「エキスポ'90みのお記念の森」及び箕面ビジターセンター
- 受講者等 教員 箕面市小学校 9名
助言者 山下 宏文 氏（京都教育大学教授）
指導者 大阪森林インストラクター会 3名
箕面市教育委員会 1名、森林管理局関係 7名 総参加者 21名
協力 箕面ビジターセンター（NPO法人みのお山麓保全委員会）

5 カリキュラム

開会にあたり、才本所長より「森林が果たす重要な役割を体感し、身につけることができる森林環境教育の充実が大切である。ふれセンでは、これまで子どもたちが自然を体験しながら

実践できる『森の探検隊』プログラムを実践してきた。先生自身に体験していただきたいことと併せて、よりよいプログラムになるようにアドバイスをお願いしたい」と挨拶。

10:00～10:15	開会 主催挨拶
10:15～12:00	森の探検隊
12:00～13:00	移動（箕面ビジターセンター）・昼食
13:00～14:15	各班とりまとめ、発表
14:15～15:00	ふりかえり（意見交換）
15:00～15:10	閉会



○森の探検隊

各班が5～6ポイントを回りながら、クワガタの集まる木の樹液の匂いを嗅いだり触ったり、鳥の鳴き声から鳥名を探したり、野イチゴを食べる体験など五感で感じるポイントや、鹿による森林被害、森林内と森林外での気温差、森の中の小さな池の不思議など、森林インストラクターの助言を聞きながら、班のみんなで学習ポイントの設問に取り組みました。

体験後の感想では、「森を楽しめた」「子どもたちは山に入ることがないと思うので体験をさせたい」「小学校6年間をとおしての環境学習を考えるきっかけとなった」などの意見が出された。アンケートでは「自身が体験してよかった」「諸条件を考えなければ、子どもたちにも体験させたい」と全員が回答し、プログラムへの評価は非常に高いことがわかりました。

○箕面ビジターセンター見学

午後からは大阪府の施設で箕面の自然に関する情報基地である箕面ビジターセンターに移動して、施設内の動植物などの展示を見学。2名のボランティアスタッフから、はく製やパネル写真、ジオラマを見ながら箕面の山の貴重な自然に関する解説を聞き、『森の探検隊』で考えたことが、「さらに理解を深めることができた」「発見があった」と学習効果が高まりました。



○発表会・ふりかえり

各班による発表では、「樹液はすっぱいにおいがした」「シカの糞を初めて見た」「野イチゴはすっぱくて甘みもあった」「鹿に食べられてできたディアラインを知った」「植物のにおいを嗅ぐ体験をしたことなかった」「本物の鳥の巣を初めて見た」など多くの体験が語られ、「おどろきと発見があって楽しかった」「五感で感じる体験はよかった」「自分たちと違うポイントでの体験の話聞いてよかった」などの意見が出されました。

ふりかえりでは、山下教授からこの学習プログラムで、学んでもらいたい視点が6つあるとして、①感性、②森林・樹木の特性、③森林の働き・機能、④森林の管理、⑤森林の現状・問題点、⑥森林との歴史的な関わり、のポイントの提起があり、参加者からは、「学年によってテーマを絞ったポイントを回るようにする」「毎年来ることで違いを発見し、感性も養われる」「指令書の内容はシンプルに」「人数が多い場合でも対応できるように工夫を」など多くの意見が出されました。

平成27年度 森林環境教育（森林ESD）活動報告・意見交換会

1月25日（月曜日）、近畿中国森林管理局大会議室において「森林環境教育（森林ESD）活動報告・意見交換会」を開催し、14団体による活動報告と参加者全員による意見交換会を行いました。



この取組は、森林環境教育をESDの視点で捉え直すことで、活動の目的や意義、改善点、森林が持つ多様性を再認識することと、実践事例の報告、意見交換会を通じて、活動の活性化と森林を活用した環境教育（森林ESD）の普及を図ることを目的に開催しました。

実施にあたっては、ESDをキーワードに多くの活動団体の参加をめざして、従来から環境教育活動の支援に取り組んでいる近畿環境パートナーシップオフィス（きんき環境館）と大阪環境パートナーシップネットワーク「かけはし」と新たに連携し、三機関共催で開催しました。

当日は、10都府県から80名を超える参加者となり、所属団体では40を超える団体からの参加となるなど、三機関共催として取り組んだ成果となりました。

(1) 活動報告は、企業関係3、教育委員会1、学校1、森林インストラクター会1、環境学習施設1、NPO等7団体から、それぞれ特徴ある活動が報告され、参加者からも「いろいろな団体・企業の取組を具体的に聴くことができてよかった」「団体が様々な組織や人と手を組み、活動の拡がりを感じた」「大変参考になった」との意見が多く寄せられました。



(2) 講評では、発表内容を踏まえて京都教育大学の山下宏文教授から、学校教育との連携をいかに図るかについて、ESDの視点と森林環境教育のポイントについて話され、参加者から「ESDについて理解が深まった」「自分たちの活動で、何に取り組み、何が欠けているか、外部との連携など、考えるきっかけとなった」「これからの活動で学校を意識していくことが必要と感じた」などの感想が出されていました。

(3) 意見交換会では5名程度のグループに分かれて、企業とNPO、教育とNPOなどの組合せで、「森林ESDで大切にしたいこと」をテーマに意見交換を行い、途中で班のメンバーを入れ替え、多くの交流が生まれる工夫も行き、「もっと時間が欲しかった」との声が出るほど、熱心に意見交換が行われていました。



(4) 参加者交流を、参加自由として閉会後に行い、局1階の森林のギャラリーの発表団体活動紹介パネルの前で行いました。「興味のある発表団体の方と直接話ができ、大変有意義な時間を得た」など、時間いっぱいまで参加者による活発な交流が行われました。

森林環境教育（森林ESD）活動報告・意見交換会 発表団体	
特定非営利活動法人 キッピーフレンズ	特定非営利活動法人 とよなか市民環境会議アジェンダ21
京都森林インストラクター会	特定非営利活動法人 クワガタ探検隊
アサヒビール株式会社 アサヒの森環境保全事務所	特定非営利活動法人 イー・ビー・イング
大山横手道上ブナを育成する会	極楽橋森林整備プロジェクト実行委員会（南海電鉄）
サントリーホールディングス株式会社	特定非営利活動法人 バイオマス丹波篠山
岡山県西粟倉村教育委員会	公益財団法人 吉野川紀の川源流物語
学校法人YMCA学院高等学校	特定非営利活動法人 地球と未来の環境基金

平成27年度「森の探検隊」

プログラムの実践

10月29日（木）に、箕面市立豊川北小学校の4年生2クラス65名が、箕面国有林「エキスポ'90みのお記念の森」で森林環境教育プログラム「森の探検隊」を体験しました。

「森の探検隊」は、「エキスポ'90みのお記念の森」内に設定された30箇所あまりのポイントから、あらかじめ各班で選択してもらった5ポイントを巡り、各ポイントに設置された「指令書」の問いを解いていくことで、楽しみながら森の不思議などを学べるよう工夫されたプログラムです。1グループ5名程度の班で、班長・記録・カメラ・採取などの役割分担を決めて、各ポイント（例えば「枯れた木の秘密」）をまわりました。各班に、ふれセン職員の外に大阪森林インストラクター会の会員7名にも補助者についていただきました。

時間	項目	内容
9:00	小学校集合・出発	バスで移動
10:00～10:15	開会あいさつ	安全指導、体験内容の説明、アイスブレイク
10:15～12:15	森の探検隊	学習ポイントを巡りながら、指令書に書かれた問題を解決していく
12:15～13:00	昼食	昼食及び自由時間
13:00～13:30	移動	バスで移動（途中箕面川ダムを見る）
13:30～15:30	施設見学 川の生き物調査 自然工作	箕面ビジターセンター見学 箕面川の生き物観察 木の実を使ったクラフト、フォトフレーム作り
15:30～15:45	ふりかえり・閉会	
15:45～16:20	帰り・小学校到着	バスで移動

山に入って、子供たちは元気いっぱい動き回り、「指令書」を見ながら、クサギの葉をちぎってそのにおいをかいでみて驚いたり、シカ柵の内と外を比べて植生の違いから増えすぎたシカと森の関係を考えたり、20mほどに成長したヒノキを見て家を建てる柱が何本とれるか考えたりなど、森や自然の不思議さなど様々な発見をしたり、考える姿が見られました。

午後からは、箕面ビジターセンターに移動し、NPO法人みのお山麓保全委員会の協力を得ながら、「水辺の生き物調査」、「森の自然工作」、「ビジターセンター見学」を行いました。

箕面に住んでいても、初めて訪れた子どもたちが多く、動物の剥製を見ながら箕面の山にいろんな動物や鳥、昆虫、草花があることに驚いていました。「水辺の生き物調査」では、箕面川から採取したトンボの幼虫など昆虫類や小動物を観察し、川の水質により水生の生き物は変わること学びました。

また、木の実を使ったクラフト作りも行い、時間いっぱい箕面の自然の学習と感じる体験をしました。



発表会

12月14日（月）に、豊川北小学校で子どもたちによる成果発表会が行われました。子供たちは、多くの人に箕面の森の良さ・大切さを伝えることを趣旨として、箕面の山で体験したことや学習したことを模造紙を使って大きなリーフレットを作成し、班ごとに発表を行いました。

「森の中は気持ちがいいのでリフレッシュできる」、「景色がよく写真を撮るのによい」といった発表や「森は『緑のダム』なので、水源としても、災害防止の観点でも重要なもの」、「森をつくるには何年もかかるので大変」といった発表が行われ、いろいろな観点から森林を見ることができており、学習効果を感じることができました。

また、「近くにこんな森があるとは知らなかった」、「おもちゃやゲーム機がなくても楽しい」、「是非ほかの人にも来てほしい」といった意見に、身近にある森林の存在や楽しさを知る機会となったことが伝わってきました。

担任の先生からも『『森の探検隊』は子どもたちが楽しみにしていた。『成果を伝えたいので発表はがんばる』』と発表会の準備に励んでいた」と子どもたちの高い学習意欲や「環境学習だけでなく、調べること、書くこと、伝えることに繋がって、とてもいい学習になっている」と学習効果についても高い評価を得ることができました。



各種取組

○明治の森箕面自然休養林管理運営協議会との連携

アサヒビール（株）による森林整備活動と森林環境学習

平成27年11月7日（土）、箕面市箕面滝の上流に位置する箕面国有林において、「明治の森箕面自然休養林管理運営協議会」主催の森林整備活動のイベントが開催され、アサヒビール株式会社職員とその家族36名が参加して、刈り払い・植樹作業及び樹木保護ネットの設置などで汗を流しました。活動に当たり、同協議会の中野会長から森林整備活動の意義も含めて歓迎の挨拶を受け、大阪府北部農と緑の総合事務所の有田課長補佐から、シカによる樹皮剥ぎを防止するための樹木保護ネットの意義や効果について説明を受けました。

午後は、芝生広場で、ふれセン職員の指導のもと「水源の森ジオラマづくり」と「野生動物の足あとをつくろう！」づくりを楽しみました。

今回の取組では、飲料を生産・販売されている企業のご家族に、森林の水源かん養機能についての理解とニホンジカによる森林被害で多様な遺伝資源の存続が危うくなってきている状況について話をしながら、森林被害の現状を認識してもらい、併せて森林や自然に対する関心を持ってもらうきっかけづくりとして実施をしました。



○「水源の森ジオラマづくり」指導者の講習会を開催

8月18日(火)、和歌山県職員及び和歌山森林管理署の職員に、「水源の森ジオラマづくり」の指導を行いました。

和歌山署では、地域で開催されるまつりなどで「水源の森ジオラマづくり」を行う計画で、その指導者の育成を図るために行いました。和歌山署では、厚みのあるマツの皮を材料に使って岩壁の景色を再現したような作品もできていました。



○水都おおさか森林の市2015で「水源の森ジオラマづくり」

10月4日(日)に、森林管理局と局前の毛馬桜之宮公園で開催された「水都おおさか森林の市2015」で、ケヤキの樹の皮を使った「水源の森ジオラマづくり」と「野生動物の足あとづくり」を行いました。午前と午後1回ずつ、47名の子ども達が作品づくりに挑戦しました。

ジオラマづくりの前に「水源としての森林」「水の循環」「森林の保水力」などについて話をし、森林への理解を深めてもらうことも行いました。

「水源の森ジオラマづくり」は、大地にみだた苔むしたケヤキの皮、樹木はイタドリの花穂、葉っぱは水苔などの自然素材を使って作ります。完成した作品を見て親子で見入りながら、森林と水の関係をあらためて考えるきっかけとなっています。

アンケートからは「ジオラマづくりが楽しかった」

「森に生命が守られているのだと感じました」「自然を大切に必要性を感じた」などの意見がありました。楽しい中にも、森林の大切さなどを感じてもらうことができました。



○YMCA 学院高等学校へ出前教室

平成27年12月7日(月)、大阪市内にあるYMCA学院高等学校において、職員2名が出前授業を行いました。

授業は、座学、校外実習、座学と3日間のカリキュラムが組み立てられており、座学では、①森林とは、②森林からの恩恵、③日本の森林と世界の森林などについてを学んでいました。校外実習では、河内長野市内の山で、ボランティアの協力を得ながら間伐作業を行うなど林業体験も行われていました。

当センターは、最終日の最後の講座として、既に行われた授業内容を踏まえ、箕面国有林での「オオクワガタの棲める森づくり」、「ニホンジカ等の野生鳥獣対策」及び「森林環境教育」などの取組について、具体的に説明を行いました。

また、森林にかかわる仕事の内容や入庁に至った経緯等について話をし、林野庁の入庁案内のパンフも配り、国有林のPRも行いました。

担当の先生からは、「生徒にとっては、森林・林業について学んだことのほか、職業として森林に携わる方の話を直接聞くことが出来て良かったです。」との感想、評価を頂きました。



平成27年度 森林環境教育手引書〈小学校編〉・森林環境教育推奨事例集配布状況

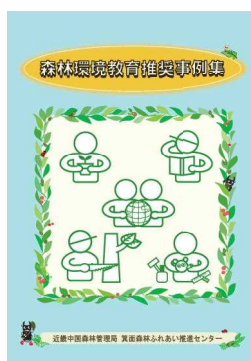
配付月	府 県	配 付 先 等	用 途
6月	島根県	島根県緑化推進委員会	教育教材用（各180部）
7月	大阪府	森林環境教育セミナー外（箕面市教員）	教育教材用（各40部）
6月	京都府	京都モデルフォレスト協会	教育教材用（各30部）
7月	奈良県	奈良教育大学附属小学校	教育教材用（各7部）
9月 ～ 10月	滋賀県	鳥居本学園中学校、竜王少年センター、栗東市役所、河辺いきものの森ネイチャーセンター、琵琶湖博物館環境学習センター外	教育教材用（各22部）
11月	鳥取県	鳥取県緑化推進委員会	教育教材用（各60部）
10月	東京都	林野庁 消費者の部屋	普及宣伝（各20部）
1月	局	森林環境教育活動報告・意見交換会	普及宣伝（各40部）
2月	大阪府	シニア自然大学校	教育教材用（各70部）

配布経過等

- ・昨年度3月に島根県緑化推進委員会から緑の少年団指導者配付用での希望があり120部送付。6月には配付資料を使った講習会が行われ、県内小学校配付用に180冊追加送付。
- ・京都モデルフォレスト協会が12月に森林環境教育のイベントを企画し、教材として活用。
- ・こだま通信8月号で、手引書等の紹介をしたところ配付希望がいくつかあった。
- ・毎日新聞滋賀県版で紹介されたことで、滋賀県内から多くの配付希望があった。
- ・島根県緑化推進委員会担当者が鳥取県緑化推進委員会に紹介し60部配付。
- ・森林環境教育活動報告・意見交換会に参加した方からシニア自然大学校指導者用に70部配付。



森林環境教育手引書
〈小学校編〉
(図表・写真・動画の
DVD付き)



森林環境教育
推奨事例集

※ 詳細は、当ふれあい推進センターのホームページをご覧ください。

http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/tebikisho/tebikisho2.html



(1) 講演活動等

○箕面市で、山とみどりの市民イベント・フォーラム開催

10月18日（日）大阪府箕面市の市民活動センターで、NPO法人みのお山麓保全委員会、明治の森箕面自然休養林管理運営協議会などが主催して、「人と自然の共生のために・・・箕面の身近な自然を大切にしよう！」サブタイトル「～身近な自然から生物多様性の保全へ 未来のために私たちができること～」が開催されました。

フォーラムでは、シカによる食害について、「箕面地域におけるニホンジカの現状」と題して、瀧岡自然再生指導官が報告を行いました。

箕面におけるシカによる被害の拡大の脅威を訴えるとともに、箕面森林ふれあい推進センターで平成26年度から実施している箕面国有林におけるシカの個体数管理事業やモニタリング調査の概要を説明し、増えすぎたシカを減らしていかなければならない一方、シカとの共生も考えていかなければならない難しい現状を報告しました。

会場からは、シカはなぜ増加しているのか？国有林内でのシカの捕獲区域をもっと広げられないのか？といった質問があり、シカの問題への関心の高さがうかがえました。



○みのお森のセラピー

市民が森林とふれあう機会を増やして、森林への関心・理解を高めることを目的に、森林ふれあい推進事業として箕面国有林でのセラピー実施団体を公募で募集し、応募のあったNPO法人みのお山麓保全委員会を実施団体とする「みのお森のセラピー」を実施しました。年間3回の計画で、5月と10月、3月（11月予定を雨天で変更）に実施しました。

瞑想やストレッチなどを取り入れながらの森林散策を行う森のセラピーによって、実施前と実施後に行う体調チェック（血圧・ストレス度など）の数値の変化に効果を実感していました。

参加者からは、「リラックスできた」「普段の森林散策とは違う喜びを感じた」「また体験したい」など好評を得ました。



○中央工学校osakaの学生が視察

2月4日（木）、柴田・滝岡自然再生指導官の案内で、建築士やインテリアデザイナーを目指す中央工学校osaka（豊中市）の学生6名が、エキスポ'90みのお記念の森及び周辺のスギやヒノキの生育や伐採・搬出、ニホンジカによる被害対策などを視察しました。

学生たちが将来使うことになる「木」について単なる材料としてだけでなく、育った環境や育てた人たちについて理解を深め、再生可能な資源として理解し活用してくれることに期待しています。



○箕面の地域FM局「タッキー816 みのおエフエム」に所長が出演

9月24日に才本ふれセン所長がみのおエフエムの番組に出演し、箕面森林ふれあい推進センターの業務の紹介やシカの問題などについて話をしました。（放送は3回：9/24, 25, 27）

○森林・林業交流研究発表会

11月26日～27日に「平成27年度森林・林業交流研究発表会」が開催され、瀧岡自然再生指導官が「箕面国有林におけるニホンジカの『個体数管理試験』及び『モニタリング調査』の実施について」と題して発表を行い、審査の結果近畿中国森林管理局長賞を受賞しました。

○国有林野事業業務研究発表会

12月10日林野庁において「平成27年度国有林野事業業務研究発表会」が開催され、池田自然再生指導官が「箕面の森で体験から学ぶ『森の探検隊』プログラムの実践」と題して、平成26年度森林・林業交流研究発表会局長賞を受賞した課題を踏まえた発表を行い、林野庁長官賞（最優秀賞）を受賞しました。

（２）パネル展示等

○消費者の部屋展示

農林水産省「消費者の部屋」特別展示（H27.12.1～12.5）において、当センターの活動状況の紹介パネル及び、水源の森ジオラマ、冊子等の展示を行いました。

○大阪大学付属病院での展示

吹田市の大阪大学付属病院の館内において、毎年行っている当年度（平成27年度）の森林の探検隊!!フォトコンテスト入選作品の展示（H27.11.30～12.19）を行いました。

作品展示は、患者さんなどから好評を得ていることから、今年度は病院からの要請により、過去のフォトコンテスト入選作品の展示も約1ヶ月（H27.6.1～7.3）行いました。



農林水産省「消費者の部屋」



大阪大学付属病院での展示

（３）投稿等

○大阪森林インストラクター会会報に記事を投稿

2015年夏号の会報への記事依頼があり、池田自然再生指導官が、箕面国有林での「森の探検隊」プログラムなど、森林環境教育活動へのさらなる支援を要請する。

○NPO法人地球緑化センター発行「タマリスク」に記事を投稿

2015年7月号の「森林の扉」欄に、「森林体験で学べること」と題して、才本所長が記事を投稿する。箕面国有林での里山再生事業として取り組む「オオクワガタの棲める森づくり」での森林体験学習プログラム「森の探検隊」についてESDの実践事例として紹介する。

○森林環境教育手引書配付を毎日新聞で掲載

9月17日付毎日新聞滋賀県版に配付についての記事が掲載され、奈良県版にも掲載されました。記事を見た教育関係や森林ボランティア関係の方から配付希望が多く寄せられました。

○京都大学学生の卒業論文に協力

森林環境教育の学校教育における導入についてを卒業論文のテーマとした学生から協力依頼があり、箕面市教育委員会と共催で実施している森林環境教育セミナーや受講した教員へのアンケート調査結果などの聞き取りに協力しました。

○こだま通信の発行

当センターの活動を広く知っていただく広報紙「かわら版」を、9号発行しました。

各種会議等への参画ほか・各種取組



地域・NPO団体等との連携を大切にして活動しています。

年月日	内 容	相手方・協力者等	場 所
H27. 4.16	箕面自然休養林管理運営協議会(第44回)	協議会・大阪府・箕面市ほか	箕面市
H27. 4.21 H27. 4.23 H27. 4.28	明治の森箕面国定公園春期パトロール	明治の森箕面国定公園保護管理運営協議会(大阪府、箕面市ほか)	箕面国定公園
H27. 4.29	山とみどりの市民イベント「みどり生き生き みのお生き生き 体験フェアinせんちゅうパル」へ出展	イベント実行委員会・箕面市ほか	豊中市
H27. 5.21	箕面自然休養林管理運営協議会総会及び第45回協議会、シカ分科会	協議会・大阪府・箕面市ほか	箕面市
H27. 6. 5	猟友会安全研修会	大阪府猟友会高槻支部	高槻市
H27. 6.22	明治の森箕面国定公園保護管理運営協議会幹事会	協議会	箕面市
H27. 7.16	箕面自然休養林管理運営協議会(第46回)	協議会・大阪府・箕面市ほか	箕面市
H27. 7.22	明治の森箕面国定公園保護管理運営協議会	協議会	箕面市
H27. 7.27 28	ニホンジカ対策にかかる都道府県との意見交換会	府県	局
H27. 9. 9	狩猟技術研修(シューティングシミュレーター)	近畿連合猟友会	局
H27. 9.17	箕面自然休養林管理運営協議会(第47回)	協議会・大阪府・箕面市ほか	箕面市
H27.10.13 H27.10.19 H27.10.26	明治の森箕面国定公園秋期パトロール	明治の森箕面国定公園保護管理運営協議会(大阪府、箕面市ほか)	箕面国定公園
H27.10.15	箕面自然休養林管理運営協議会(第48回)	協議会・大阪府・箕面市ほか	箕面市
H27.10.18	山とみどりの市民イベント「みどり生き生き みのお生き生き 体験フェアinかやの広場」へ出展	イベント実行委員会・箕面市ほか	箕面市

年月日	内 容	相手方・協力者等	場 所
H27.11. 7	箕面自然休養林管理運営協議会イベント(森林整備)	協議会、大阪府	箕面国有林
H27.11. 9	ニホンジカ被害対策情報交換会	府県、町村、猟友会等	局
H27.12.17	箕面自然休養林管理運営協議会(第49回)	協議会・大阪府・箕面市ほか	箕面市
H27. 2. 25 3. 4	箕面自然休養林管理運営協議会主催事業(植生回復パッチディフェンスの設置)	協議会	箕面国有林ほか
H28. 2.18	箕面自然休養林管理運営協議会(第50回)	協議会・大阪府・箕面市ほか	箕面市

各種事業を通じて、森林環境教育の普及・技術提供・情報発信に努めています。

年月日	内 容	参加者	場 所
H27. 5.14	第1回みのお森のセラピー (NPO山麓委員会と共催、森林ふれあい推進事業)	一般募集	箕面 国有林
H27. 7.24	教員研修「森の探検隊」(箕面市教育委員会と共催)	教員	箕面国有林
H27. 7.27	森林環境教育セミナー(箕面市教育委員会共催)	教員	箕面国有林
H27. 8.30	森林環境教育の普及	京都教育大学附属高校卒業生保護者会	高台寺山 国有林外
H27.10.22	第2回みのお森のセラピー (NPO山麓委員会と共催、森林ふれあい推進事業)	一般募集	箕面 国有林
H27.10.29 12.14	森の探検隊(箕面市立豊川北小学校) 発表会	小学4年生	箕面国有林 豊川北小
H27.11.26	研究発表「箕面国有林におけるニホンジカの「個体数管理試験」及び「モニタリング調査」の実施について」	森林・林業交流研究発表会	局
H27.12. 7	YMCA学院へ出前講座	高校生	大阪市
H27.12.10	研究発表「箕面の森で体験から学ぶ ー「森の探検隊」プログラムの実践ー」	国有林野事業業務研究発表会	林野庁
H28. 1.25	森林環境教育(森林ESD)活動報告・意見交換会)	公募団体・一般	局
H28. 2. 4	中央工学校osakaの視察	学生、教員	箕面国有林
H28. 3.13	第3回みのお森のセラピー (NPO山麓委員会と共催、森林ふれあい推進事業)	一般募集	箕面 国有林

趣旨

箕面森林ふれあい推進センターでは、森林づくり活動や自然再生活動を行っているNPO及び森林環境教育を推進している教育関係者等の要望を的確に反映した取組等を行うため、当センターの運営に関して、学識経験者、森林ボランティア活動を行っている者及びマスコミ関係者をメンバーとする懇談会を設置し、懇談会等からの意見及び要望等を反映させた対話型の取組、効果的・効率的な運営を推進しています。

検討事項

- ボランティアによる森林整備活動に関する事
- 自然再生に関する事
- 森林環境教育支援活動に関する事
- 情報の受発信に関する事

懇談会委員 (五十音順、敬称略)

- ・ 金井久美子 (NPO法人地球緑化センター専務理事)
- ・ 北出 昭 (毎日新聞社大津支社)
- ・ 山下 宏文 (京都教育大学教授)

平成27年度第1回懇談会

平成27年11月21日(金)、近畿中国森林管理局会議室において、第1回運営推進懇談会を開催しました。

懇談会では、当センターの平成27年度の活動状況について、各担当指導官から説明し、委員からご意見をいただきました。

委員からは、森林での体験学習の推進は重要、教員等教育関係者との連携による取組を継続すべき。有害鳥獣被害対策については、捕獲の成果をあげていることだけにとどまらず、様々な団体と丁寧に連携した取組として、一般に普及できるモデルとなり得る。フォトコンテストは入選作品の発表会に足を止めて聞き入れてくれた方がいたことは意義がある。入選作品を使ったカレンダーは応募者の励みになる。センターの良い取組をマスコミに取り上げられるように工夫をすること。などの意見がありました。

平成27年度第2回懇談会

平成28年3月3日(月)近畿中国森林管理局会議室で、第2回運営推進懇談会を開催しました。

懇談会では、ふれあいセンターから、平成27年度の活動実績及び平成28年度の活動計画(案)について説明し、委員との意見交換を行いました。

委員からは、有害鳥獣被害防止の取組は、行政・地域・猟友会などとの協議会がうまく連携できていることがすばらしく、引き続き、市民に現実を知ってもらう取組をお願いする。森林環境教育(森林ESD)活動報告・意見交換会の取組は評価でき、来年度も学校との連携など、工夫をして取り組んでもらいたい。森の恩恵を受けていることを知ること、理解してもらうことが必要であり、森林環境教育の取組を拡げてもらいたい。森林環境教育手引書や推奨事例集などが、増刷をされて活用されていることは評価でき、冊子の紹介・活用をさらに取り組んでもらいたい。などの意見が出され、平成28年度の事業に活かしていくことを確認しました。

ふれあいセンターへのアクセス



JR大阪環状線「桜ノ宮駅」下車、西出口から徒歩約5分

編集・発行：林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター

〒530-0042 大阪府大阪市北区天満橋1丁目8番75号 近畿中国森林管理局内

TEL 050-3160-6745 FAX 06-6881-2055

ふれセンHP http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/

メールアドレス kc_fureai@maff.go.jp



ふうちゃん (楓) カエデ
らくちゃん (樫) クヌギ
おうちゃん (桜) サクラ
デジ君

質面森林ふれあい推進センターのキャラクター



この冊子は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています